



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社インバウンドテック

コード番号 7031 URL <https://www.inboundtech.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 東間 大

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO 専務執行役員 管理本部長 (氏名) 金子 将之 TEL 03-6274-8400

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	522	△19.5	△60	—	△82	—	△92	—
2025年3月期第1四半期	648	△27.0	△13	—	△14	—	△25	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 △89百万円 (—%) 2025年3月期第1四半期 △24百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△38.89	—
2025年3月期第1四半期	△10.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	2,690	1,856	55.9
2025年3月期	2,843	1,983	57.5

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 1,504百万円 2025年3月期 1,634百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—				
2026年3月期（予想）		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,600	2.2	135	531.2	105	562.4	60	—	24.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	2,492,275株	2025年3月期	2,492,275株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	136,300株	2025年3月期	92,600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	2,384,017株	2025年3月期1Q	2,467,922株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、マルチリンガルCRM事業における日本語案件につきましては、民間企業から受託する案件数は安定的な増加が続いております。案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、競合の参入増や係る人件費の高騰などから厳しい外部環境であります。第2四半期以降開始となる案件については計画に近い形で獲得が進んでおります。一方、多言語分野に係る業務の受注及び入電数については、インバウンド需要増に伴い順調に増加傾向が続いており、今後も安定した成長が見込まれる状況です。また、事業の新たな柱を目指して医師会及び健康保険組合の帳票作成代行等のヘルスケアBPO事業に取り組んでおりますが、当該事業については成長途上であり、収益化が視野に入りつつある状況まで来たものの、グループへの利益貢献につきましては今期後半以降になるものと見込んでおります。その他、連結子会社である株式会社OmniGridにつきましては、同社が提供するIVRサービスの主顧客であるEPARKのID数が当初計画を下回る推移が続く状況であったことからIVRサービス及びBizTAPに関する事業売却を決定したことにより、前期末にてのれん及び固定資産の減損損失を計上いたしました。これにより、のれんの償却負担減と収益化している既存事業のBizTAP AIとデスクウイング事業に集中することで同社の売上高は減収となりますが、利益構造は大きく改善しております。

セールスアウトソーシング事業においては、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。一方、もう一つの主力業務であるソフトバンクモバイルにおける契約勧奨業務については、他社業務委託先による個人情報流出の疑いによって営業目的での架電が停止となりましたが、当第1四半期連結累計期間においては売上・利益共に計画に近い形で推移いたしました。第2四半期以降については代替案件へ人員をシフトすることにより、年間計画についても期末まで計画通り進捗する見通しです。

その他営業外費用として拠点の整理に伴う工事費用20,383千円、特別損失として固定資産の除却2,774千円が発生し、その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は522,002千円（前年同期比19.5%減）、営業損失は60,117千円（前年同期 営業損失13,955千円）、経常損失は82,757千円（前年同期 経常損失14,939千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は92,714千円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失25,775千円）となりました。

	前第1四半期連結 累計期間（千円）	当第1四半期連結 累計期間（千円）
売上高	648,387	522,002
営業損失（△）	△13,955	△60,117
経常損失（△）	△14,939	△82,757
親会社株主に帰属する 四半期純損失（△）	△25,775	△92,714

セグメント別の状況は以下のとおりであります。また、各事業分野のセグメント利益は、全社管理部門費用106,677千円を含まない額であります。

・マルチリンガルCRM事業の概況

マルチリンガルCRM事業におきましては、日本語を含む13言語を活用し、外国人と日本人のコミュニケーション問題を解決する多言語・通訳ソリューションを24時間365日体制で提供しております。

当セグメントにおける主要サービスである多言語によるサポートニーズですが、訪日外国人観光客の増加に伴い、当第1四半期連結累計期間については、入電数や新規案件の引き合い増など、インバウンド関連は右肩上がりの状況が続いております。しかしながら、売上・利益の額が大きい日本語案件と比較すると、規模はまだ成長途上であるため、今後も営業活動を継続して案件の増加に取り組んでまいります。また、事業の新たな柱を目指して医師会及び健康保険組合の帳票作成代行等のヘルスケアBPO事業に取り組んでおりますが、当該事業については成長途上であり、収益化が視野に入りつつある状況まで来たものの、グループへの利益貢献につきましては今期後半以降になるものと見込んでおります。その他、案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、競合の参入増や係る人件費の高騰などから厳しい環境が続いておりますが、第2四半期以降開始となる案件が計画に近い形で獲得が進んでおります。民間企業からの日本語案件につきましては、前期後半から注力している通販のカスタマーサポートなど、新たな業務が立ち上がっておりますが、案件開始に共なる人件費等の費用が先行する状況が続いております。

以上の結果、マルチリンガルCRM事業全体では、売上高は372,039千円（前年同期比14.2%減）、セグメント利益は17,242千円（同75.3%減）となりました。

	前第1四半期連結 累計期間（千円）	当第1四半期連結 累計期間（千円）
売上高	433,552	372,039
セグメント利益	69,673	17,242

・セールスアウトソーシング事業の概況

セールスアウトソーシング事業では、主に当社がクライアント企業に代わって見込みユーザーに対してインサイドセールス等を行っております。当第1四半期連結累計期間については、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。一方、もう一つの主力業務であるソフトバンクモバイルにおける契約勧奨業務については、業務委託先による個人情報流出の疑いによって営業目的での架電が停止となりましたが、当第1四半期連結累計期間においては売上・利益共に計画に近い形で推移いたしました。また、第2四半期以降は代替案件へ人員をシフトすることにより、年間計画についても期末まで計画通り進捗する見通しです。

以上の結果、セールスアウトソーシング事業全体では、売上高は157,810千円（前年同期比27.1%減）、セグメント利益は29,317千円（同19.2%増）となりました。

	前第1四半期連結 累計期間（千円）	当第1四半期連結 累計期間（千円）
売上高	216,392	157,810
セグメント利益	24,587	29,317

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、主に無形固定資産等の増加があった一方、売掛金の減少及び有形固定資産の償却が進んだことによって前連結会計年度末と比較して153,090千円減少し、2,690,419千円となりました。これは流動資産が252,253千円減少し、固定資産が99,163千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、主に買掛金が増加した一方長期借入金の返済等から、前連結会計年度末と比較して26,095千円減少し、834,137千円となりました。これは流動負債が10,281千円増加し、固定負債が36,376千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、利益剰余金の減少及び自己株式の取得等により前連結会計年度末と比較して126,995千円減少し、1,856,282千円となりました。これは主に利益剰余金が92,714千円減少し、非支配株主持分が3,105千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績につきましては、2025年5月13日に公表いたしました業績予想に変更はありません。今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,407,147	1,399,623
売掛金	480,316	272,014
その他	177,299	140,853
貸倒引当金	△170	△150
流動資産合計	2,064,593	1,812,340
固定資産		
有形固定資産	116,147	109,102
無形固定資産		
のれん	18,463	119,513
顧客関連資産	276,750	266,500
その他	201,512	219,673
無形固定資産合計	496,726	605,686
投資その他の資産	166,041	163,289
固定資産合計	778,916	878,079
資産合計	2,843,510	2,690,419
負債の部		
流動負債		
買掛金	71,795	83,860
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	144,000	144,000
未払法人税等	4,467	1,674
賞与引当金	760	—
その他	121,365	123,135
流動負債合計	742,388	752,670
固定負債		
長期借入金	108,000	72,000
資産除去債務	1,037	1,040
その他	8,806	8,427
固定負債合計	117,843	81,467
負債合計	860,232	834,137
純資産の部		
株主資本		
資本金	548,024	548,024
資本剰余金	536,449	536,449
利益剰余金	635,496	542,782
自己株式	△85,746	△123,132
株主資本合計	1,634,223	1,504,123
新株予約権	21,466	21,466
非支配株主持分	327,586	330,692
純資産合計	1,983,277	1,856,282
負債純資産合計	2,843,510	2,690,419

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	648,387	522,002
売上原価	516,475	458,231
売上総利益	131,911	63,771
販売費及び一般管理費	145,866	123,888
営業損失(△)	△13,955	△60,117
営業外収益		
還付加算金	—	9
預り保証金精算益	140	—
その他	9	24
営業外収益合計	149	34
営業外費用		
支払利息	1,134	1,932
支払手数料	—	343
事務所移転費用	—	20,383
その他	—	13
営業外費用合計	1,134	22,673
経常損失(△)	△14,939	△82,757
特別損失		
固定資産除却損	—	2,774
特別損失合計	—	2,774
税金等調整前四半期純損失(△)	△14,939	△85,531
法人税、住民税及び事業税	2,586	2,139
法人税等調整額	7,460	1,938
法人税等合計	10,046	4,077
四半期純損失(△)	△24,986	△89,609
非支配株主に帰属する当期純利益	788	3,105
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△25,775	△92,714

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純損失(△)	△24,986	△89,609
四半期包括利益	△24,986	△89,609
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△25,775	△92,714
非支配株主に係る四半期包括利益	788	3,105

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれん及び顧客関連資産を除く無形固定資産に係る償却費を含む。）、のれんの償却額及び顧客関連資産償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	24,631千円	11,559千円
のれんの償却額	22,492	4,998
顧客関連資産償却額	10,249	10,249

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	431,994	216,392	648,387	—	648,387
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,558	—	1,558	△1,558	—
計	433,552	216,392	649,945	△1,558	648,387
セグメント利益	69,673	24,587	94,260	△108,215	△13,955

(注) 1. セグメント利益の調整額△108,215千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	364,192	157,810	522,002	—	522,002
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,846	—	7,846	△7,846	—
計	372,039	157,810	529,849	△7,846	522,002
セグメント利益	17,242	29,317	46,559	△106,677	△60,117

(注) 1. セグメント利益の調整額△106,677千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。